

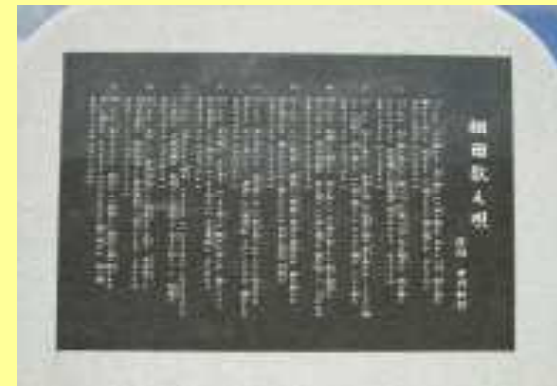
事例発表

平成20年度 山口県農地・水・環境保全の集い

河原地域資源保全会 (長門市油谷河原)

日時:平成20年11月26日(水)

場所:県総合保健会館 多目的ホール



対象地域の概要

位置 長門市は県北西部に位置し、北は日本海に面しており、対馬海流の影響を受け気候は比較的温暖な地域である。

油谷河原は市の西部に位置し7つの集落で構成された地域である。全地域で大区画(1ha区画)のほ場整備が完了している。

経緯 地域の担い手となる営農組織の存在

- ・ H5年2月に河原営農改善組合を設立
- ・ H14年9月に農事組合法人河原を設立
- ・ H18年度に農地・水・農村環境保全向上活動実験事業に取り組み地域内農地53haにおいて実験事業を実施し、平成19年度に農地・水・環境保全向上対策事業に取り組むにあたり62haを対象農地として、地域ぐるみで組織運営や活動計画について検討・協議を重ね、平成19年3月28日に設立。

共同活動

1. 農業者等……43戸

農事組合法人河原(代表理事 原田 忠久)

2. 非農業者等……7組織

河原水利組合(組合長 原田 忠久)

油谷河原土地改良区(理事長 金子 博)

シルバー人材センター(地区班長 福永 泰彦)

NPO法人しぜんとあそびたい(代表 安部 隆史)

長門市立油谷小学校5年生

河原自治会(代表 上野 靖兒)

棚田数え唄(代表 上野 洋子)

営農活動

1. 農事組合法人河原(農業者35戸)

JA長門大津(油谷支所)

資源の概要

位置	山口県長門市油谷河原集落一円の地域					
農用地	地目	田	畑	草地	計	
	対象農用地	60.8 ha	1.0 ha	0.0 ha	61.8 ha	
	協定農用地	60.8 ha	1.0 ha	0.0 ha	61.8 ha	
	(うち農振農用地)	60.8 ha	1.0 ha	0.0 ha	61.8 ha	
農業用施設	開水路	パイプライン	ため池	農道		
	20.0km	0.0km	0箇所	8.8km		

先進的な取組(水稲)

直播の例

(化学肥料5割減)・・・8 → 4 (N成分kg/10a)

(化学合成農薬5割減)・・・23→11 (のべ成分回数)

化学肥料

資材名称	窒素成分割合	使用時期	使用量	窒素成分量
果穂里	0%	5月上旬	60 kg	
牛糞	0%	1月	1,000 kg	

化学合成農薬

農薬名	使用時期	化学合成農薬成分回数
アドマイヤー水和剤	5月上旬	1
カルパー紛粒剤16	5月上旬	1
イノーバーDX1キロ粒剤75	移植時	3
ブラシンジョーカーフロアブル	穂揃期	3
バリダシンエアー	穂揃期	1

共同活動 (サイホン清掃)



土砂等の状況確認



土砂等の泥上げ



農村環境向上活動 (稲についての学習)



長門市立油谷小学校 5 年生



促進費 質の高い農村環境向上活動



農業研修所周辺・小連歌川(水路)法面をティフ・ブレアで植栽

促進費 質の高い農村環境向上活動



魚類の生息場として連歌川(水路)にBFを設置



促進費 質の高い農村環境向上活動



納骨堂入口の農道沿い放棄田に花蓮を植栽 14



地域の想いが一つに～農地・水・環境向上対策～

○清らかで豊かな水の恩恵

俳人“柿本人麻呂”が人丸神社境内地を訪れた際に俳句を詠ったのがきっかけで、『連歌川』という名前が付けられたという。油谷河原地域に暮らす人々の心には一帯を潤すこの川の清く豊かな流れが深く刻み込まれ、連歌川の流れが“水に対する愛着心と環境を守る想い”を育んできた。

○連歌川を取り巻く環境の変化と人々の想い

近代化が進む中、連歌川へと流れ込む水脈を横断するように山陰本線や国道が建設され、近年においては、広域農道の建設や水源地域における大坊川ダム・阿惣ダムの建設などが行われ、地域の人々は「油谷河原地域に多くの恵みをもたらしてきた連歌川の水量が減少し、水質の悪化や地域の環境が悪くなるのではないか？」という不安を抱くようになった。

○農地・水・環境保全向上対策への取り組み

連歌川を取り巻く環境の変化に危機感を持っていた地域住民は、『農地・水・環境保全向上対策』に積極的に参加しており、“連歌川が育んできた油谷河原地域の素晴らしい環境を取り戻す”ことを共通の目的として、地域共同活動の更なる推進を図ることと考えている。

- ・ 農業者を中心として農業用水路の目地詰めや排水路の機能回復などの維持・補修作業を重点的に実施。
- ・ 「棚田数え歌」の会など非農業者を中心に地域の景観保全にも結びつく水路法面へのティフ・ブレアの植栽などの活動を実施。
- ・ 連歌川の生態系を回復させるために、鰻・鮎・手長エビ・ハヤなどが生息できる環境づくりを実施。
- ・ 回復させた生態系を活用し、地域の子供たちへの環境学習の場として利用。

また、放棄され荒れていた田に『花蓮』を植栽し県下でも有数の群生地を創りあげたところであり、開花時には交流の場として提供し、地域活性化の一助とすることを考えている。